

路線価平均0.2%上昇

広島国税局は1日、県内の路線価を発表した。標準宅地4106地点の平均変動率は0.2%で、現在の計算方法が採用された20

10年以降、初めて上昇に転じた。標準宅地の平均変動率は昨年まで、10年連続で下落していた。下関市の不動産鑑定士、

※1平方メートルあたりの評価額。単位は万円。▼はマイナス

順位	税務署	所在地	2020年	2019年	変動率(%)
1	下関	下関市竹崎町4丁目 下関駅東口駅前広場	21.0	21.0	0.0
2	山口	山口市小郡黄金町 県道山口阿知須宇部線通り	14.5	14.5	0.0
3	岩国	岩国市麻里布町2丁目 本通商店街通り	12.0	12.0	0.0
4	徳山	周南市銀座1丁目 徳山駅北口駅前広場	11.0	11.0	0.0
5	防府	防府市中央町 市道大林寺協和線通り	10.5	10.5	0.0
6	宇部	宇部市常盤町1丁目 常盤通り	6.8	6.8	0.0
7	光	光市浅江3丁目 国道188号通り	5.4	5.4	0.0
8	柳井	柳井市南町3丁目 国道188号通り	4.8	4.8	0.0
9	萩	萩市土原 国道191号通り	4.4	4.5	▼2.2
10	厚狭	山陽小野田市西高泊 国道190号通り	3.9	3.9	0.0
11	長門	長門市東深川 市道駅南中央線通り	3.0	3.1	▼3.2

稲田豊さんは「低金利政策が続いたことや、長期にわたる土地価格の下落で値頃感が出たことが土地需要の高まりにつながった」と説明している。

標準宅地4106地点(前年4090地点)のうち、上昇したのは811地点(同391地点)。上昇地点が多かったのはJR新下関駅(下関市)の周辺と、JR新山口駅(山口市)の北側のエリアだった。

県内で最も高かったのは22年連続で下関市竹崎町4丁目のJR下関駅東口駅前広場で、価格は21万円で5年連続の横ばい。

11税務署ごとの最高路線価は横ばいが下関、宇部、山口、徳山、防府、岩国、光、柳井、厚狭の9署。萩と長門の2署が下落した。山口市のトップは、JR新山口駅前にある山口市小郡黄金町の県道山口阿知須宇部線通りで、14万5千円。全国の県庁所在地の中では6年連続の全国43位だった。

新型コロナウイルスの今後の影響について、稲田さんは「感染が収まるまで新

規の出店が減り、商業地で路線価の下落傾向が予想される」とした。

路線価は、主要道路に面

した1平方メートルあたりの評価額(1月1日時点)で、相続税や贈与税を計算する基準になる。(山崎毅朗)